

天溪 2024 年「ピレネー国境横断ハイキング 11 日間」

「ピレネー国横断ハイキング 11 日間」を 7 月 17 日～7 月 27 日に行いました。

天溪のピレネー山脈 フランス/スペイン国境横断ハイキングはローラン裂目手前に大雪田が有り、雪が落着く 8 月下旬に行っていました。けれどもお花と国境越えを組み合わせたハイブリッドハイキングのリクエストが多数有り、今年は 7 月下旬に前倒しての実施です。

一寸した問題が一点、国境のローラン裂目を越えてスペイン側に下ったゴリツツ小屋が昨年に続き修繕から殆ど泊まれない状態。そこでフランス側のサラデ小屋からローラン裂目を往復し、一端昨日通ったブッシュャロ峠まで戻り、サンティアゴ・デ・コンポステラに向かう巡礼街道(トゥールーズ道の一部)をスペイン側のトルラに下るルートに変更。

スペイン側のオルデッサ圈谷は十分に見れませんが、それに余りあるエーデルワイスやハリネズミの木が見事でした。



(ローラン裂目 7 月 22 日)

○カルカソンヌ/ルルド/コトレ/ビニユマル山麓

カタル航空がドーハ～トゥールーズ線をオープンしたのでこれを利用してカルカソンヌへ。「カルカソンヌを見ずして死ぬなかれ」と言われるフランス世界遺産の歴史的城塞都市から、聖母マリアの出現で有名なルルドの泉に寄り、ピレネー山脈の温泉保養地コトレへ。ハイキング初日はゴーフ湖を通り、フランス・ピレネー最高峰のビニユマル山(3298m)北壁の麓まで足慣らしのハイキング。7 月も後半になり結構行楽客で混んでいましたが、アイリス(アヤメ)、なでしこ、ヤナギランの花がはやる気持ちを和ませてくれました。



(城塞都市カルカソンヌ 7 月 18 日)



(カルカス像)



(ルルド)



(コトレ)



(ビニユマル山)



(アイリス)



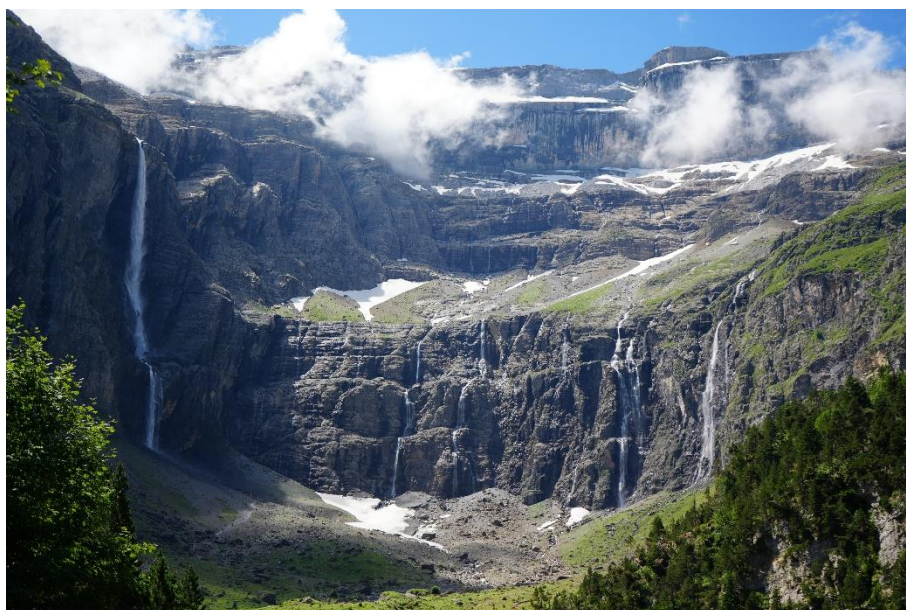
(なでしこ)



(ヤナギラン)

○ガバルニー圏谷

世界遺産のガバルニー圏谷は円周 14Km。その中央に有るヨーロッパ最大と言われる落差 422mの滝まで左岸のトラバースコースを通してハイキング。このトレイルは底部の川沿いを進む一般道と違い静かなガバルニー圏谷が楽しめます。



(ガバルニ圏谷 7月 21 日)



○ローランの裂目

ガバルニーからタンテ峠まで車で上がりハイキングスタート。最初は大きなヘアピンカーブの登山道を、翌日戻るブッシュャロ峠を通り、山の中腹をトラバース気味に進みます。そして、水量豊富な沢を横断して登り詰め、リッジに出るとサラデ小屋とローラン裂目が現れました。サラデ小屋で宿泊手続きを済ませローラン裂目を目指して出発。

モレーン状の砂地の急坂を登り中腹のテラスに出ると大雪田が出現。登る人達の大きさと裂目までの距離を判断すると見た目ほど距離は無し。雪の斜面に不安を抱きながら出発し、最後に2m程の岩棚を乗り越えて回り込むと裂目に到着。スペイン側のオルデッサ圏谷が現れました。フランス側/スペイン側のもみ合う心地よい風に触れながら裂目を満喫して下山。

翌朝 6:40 分、昇る朝日で赤く色付いたローランの裂目が綺麗でした。



(朝日に染まる裂目 7月23日)



(タンテ峠)



(ブッシャロ峠)



(オルデッサ圈谷)



(ローランの裂目 7月22日)

○サラダ小屋からトルラ

サラダ小屋から来た道をブッシャロ峠まで戻り、さらにスペイン側のブッシャロ小屋に向けて下りました。ガバルニーからトルラに続くこの道は昔のフランス/スペイン交易ルート、またホタテ貝マークが目印の巡礼街道です。驚いたのは山肌を染める黄色で近づいてよく見ると尖った葉に黄色い無数の花を付けており、誰が名付けたのか「ハリネズミの木」。アルプスのアルペンローゼより色鮮やかで山の斜面を引き立てます。一方、植物ならエーデルワイス、歌でもお馴染みのこの花は普段中々見付きませんが、この地方は石灰質の土壌が多いせいか結構生えています。

トルラは交易ルートの宿場町の名残りが有る静かな村。嘗てはメイン料理を注文するとワインが飲み放題の素晴らしいサービスが有りました。今もこの風習が残っている様ないない様な？



(ハリネズミの木？ 7月23日)



(ホタテ貝の巡礼街道マーク)



(エーデルワイス)

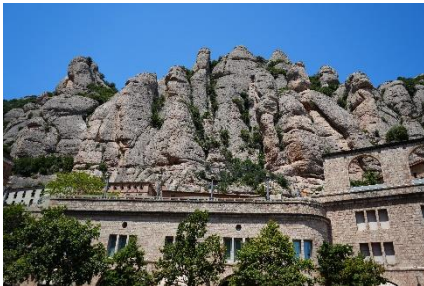
○スペインの史跡巡り

トルラから岩容と黒いマリア像で有名なモンセラート修道院に寄り、バルセロナのサグラダファミリアへ。エレベーターで塔に上がり彫刻やバルセロナ市街を眺めながら螺旋階段で戻りました。サグラダファミリアはガウディ没後 100 年にあたる 2026 年にメインタワー172.5mが完成、そして全体が完成するのは10年後の 2034 年の様ですが??

ここまでは全て順調に旅を続けましたが最後に大きな落とし穴が……。トルラからのチャーターバスが私達を中央駅で降ろし運転打ち切り。どうやら駐車場所が無かった様ですが、ホテルまでのスーツケース搬送に右往左往して何とか辿り着く始末。旅の思い出に X マークが幾つも付いてしまいました。バルセロナ市内の交通事情は要注意ですね。



(サグラダファミリア 7月25日)



(モンセラート)



(サグラダファミリア螺旋階段)



(カタルーニャ音楽堂)

このツアーで 2024 年の欧州方面は終了です。丁度欧州から日本に向かって飛んでいるころパリ五輪の開会式。機上に付き開会式は見れませんでした。何故か五輪に親近感を覚えました。

次は所を北米に移し、カナディアンロッキーとオーロラのイエローナイフに向かいます。

天溪/赤沼